

2013年度 国立衛研 一般公開 Rev1.7

－医薬品や食品等の品質確保、安全性、有効性を求めて－

企画調整主幹付 宮原 誠

7月27日(土曜日)、国立衛研の2013年度一般公開が行われた。朝からの暑さにかかわらず、過去8年で最多の見学者があり、正面入り口付近は混雑した。各部は例年のようにパネルや展示実験などで日頃の研究の成果をアピールした。午後に衛研講座も例年どおり開講され、130席余りの会場はほぼ満席になった。午前10時から始まった公開は午後4時に終了した。

午前中には100人以上の来場者を数え、昼には気温は31.5度を超える暑さとなったにも係わらず、夕方までには295人の来場者となった。前庭には、子供用の自転車などが多数並び、近隣の子供や人々が夏休みの1日を国立衛研で最先端の科学に触れて過ごすことが出来たようだ。

特に実験参加型の展示には狭い廊下に終日参加者が溢れていた。食品添加物部が実施した実験参加型展示“イクラを作ろう”，医療機器部の“いろいろな医療機器に触ってみよう”，薬品部の“くすりのレシピ”，代謝化学部の“身近な放射線”及び生活衛生化学部の“簡単な水道水質検査をやってみよう”，病理部の“細胞染色の実験”などに見学者の関心は高く、実験系ラボにふさわしい展示となった。一方、代謝生化学部の展示には、放射性物質に関する基礎的な知識を確認する人々が多数いた。

国立衛研と連携大学院の協定を結んでいる複数の大学から、それぞれの主任教授に引率された学生さん達のグループが熱心に見学する姿が印象に残った。

廃棄物処理施設が恒例のヨーヨー釣りなどを実施し、ちびっ子だけでなく大人の参加

者も楽しんでた。ここでは観葉植物の無料配付も行われた。

衛研講座の演題は”水道水の安全性のはなしー利根川水系の水質汚染事故を例にー”と”やさしい化学のはなしー創薬研究から違法ドラッグまでー”で、30分ずつ講演が行われた。

午後4時の閉門時に、アンケートに熱心に答える人たちで玄関ホールが一杯になり、国立衛研に対する一般の人々の関心と期待が伺えた。

これらの講演や公開テーマの詳細な内容はhttp://www.nihs.go.jp/oshirasejoho/ippankokai/h25/3.theme_naiyou.pdfに掲載されている。



衛研講座 やさしい化学の話

東京世田谷 国立衛研講堂にて撮影 2013年